

海旅業界

関西シニア会会報

発行人 恒松 一郎 海旅業界関西シニア会 大阪市西区江戸堀2-1-1 (江戸堀センタービル) 株式会社トラジャルウエスト内

2003
4月
第
14
号

ご 挨拶

会 長 恒 松 一 郎

早いもので、榊前会長よりバトンタッチを受け、あつという間に2年の歳月が経ちました。就任の折に申し上げたことが二つあります。

一つは、高齢化社会が進むにつれてシニア会のあり方も変わってきているのではないのでしょうか。

『エンジョイライフをテーマに、心を豊かにするシニア会アクティビティへ積極的に参加しよう。』

もう一つは、『パソコンをもっと勉強し利用しよう』この二つです。

喜ばしいことに二年が経過した現在、この呼びかけが急速に実現しつつあるのを感じます。これは、昨年度の活動のみてもわかります。アウトドア・スポーツ部門のウォーキング・ゴルフも参加人数が倍増し、わいわいがやがや、活気を呈して一層楽しいものになってきました。新設のテニスも軌道に乗りつつあります。

一方、カルチャー部門では、念願のパソコン教室の開講に漕ぎ着けました。これは、前述の呼びかけに対応したものです。西宮の在来パソコン教室「class-e」にお願いし、シニア会の特別のカリキュラムと破格の料金を提供していただき昨年5月開講いたしました。ついたニックネームが『楽々パソコン塾』、現在、30数人もの方が楽しく学んでおられます。そして、サタデーラウンジ西宮もあわせて4月開始。これは前記PC教室に先生方をお招きし、名前が示すとおり社交を楽しみながら、先生方に

パソコンに関する日頃お聞きできないような質問も聞けるようにしたもので、ワインパーティーありアフタヌーン・ティーありで楽しい雰囲気がかもし出されて好評です。原則月に一度第三土曜日に開



催しております。誰でも参加できますので、一度覗いてみるのもパソコンが身近なものとなり人生が一層楽しくなります。また、シニア会ホームページも年末に完成、IT時代に何とかシニア会としても楔をうちこむことができました。

トラベル部門も、海外は夏にキャメロンハイランド7日間を実施、現地日本人会のロングステイ中の方々とのディスカッションを開催するなど楽しさの中に学習をして参りました。国内旅行も企画のよさも加わって多くの方々が秋の一日を楽しみました。

今年度も上記路線を踏まえてシニア会の活動を拡大させ前向きに進めて行きたいと思えます。新しくロングステイ研究会も発足いたします。色々なアイデアが飛び出してくると思います。これらの多くのプログラム活性化の陰では、多くの優秀な運営委員の方々がいろいろ懸命の努力を尽くし手弁当で会を支えておられます。改めて運営委員の皆様へ感謝の念を捧げる次第です。

ホームページを開設しました

待望のシニア会ホームページを開設しました。運営委員4名がゼロからスタートしての合作で、技術的に未熟な面が多々ありますが、作成テクニックとともにコンテンツも徐々に充実してゆきます。会員交流の場としてご活用いただければ幸甚です。

<http://www.class-e-jp.com/senior/kai/index.htm>

2003年度総会開催される

第14回・2003年度 海旅業界関西シニア会総会 が2月7日（金）午後5時から阪急ターミナルビルのレストラン「ル・シェル」で開催されました。66名の会員が出席してすべての議事が順調に進行、議決されました。（委任状提出者61名）

恒松会長は冒頭の挨拶の中で「潤いのあるシニアライフ」を強調しながら、女性会員の拡充、ホームページを中心としたIT環境拡充による会員の交流に向けたさらなる取り組み、同好会活動の一層の活性化などを新年度の活動目標としてあげられました。（本誌第1面「ご挨拶」参照）

承認・決議された議題：

1. 2002年度会計報告および2003年度予算・活動計画（別紙参照）
2. 運営委員改選

下記の運営委員が今後2年間にわたってシニア会の運営にあたることになりました。

会 長	恒松 一郎	(運営委員)
副 会 長	雌 次郎	高橋 謙治 (ゴルフ同好会)
副 会 長	牧野 宏	高山 嘉明 (ウォーキング同好会)
会 計	益田 健二	久保田 勝 (テニス同好会)
会計監査	福井 功	福井 安司 (パソコン同好会)
事務局長	仲 功	山田 晴義 (ロングステイ研究会)

3. 会則の一部改正

会則全文は会員名簿表紙裏に掲載されています。

引き続き、会場を移して懇親会が行なわれ、飛び入り参加のゲストを交えて時間の経つのを忘れて懇親の輪があちこちに広がりました。

会 員 の 動 向



◇新入会員（入会順・敬称略、カッコ内は入会年月）

下川 哲 (02年3月)	紺木 政行 (02年 3月)	相野 龍雄 (02年3月)
海藤 光信 (02年3月)	澤田 宗男 (02年 3月)	鈴木 達郎 (02年4月)
梶田 博一 (02年4月)	畑 俊行 (02年 4月)	篠原 和男 (02年5月)
打田 照雄 (02年7月)	別所 公夫 (02年 8月)	上窪 力二 (02年9月)
中井 敏雄 (02年9月)	永長 猛志 (02年10月)	石田由美子 (03年1月)
大迫 嘉昭 (03年2月)		

◇物故会員 今村 寛 (元エアインディア・2002年6月逝去)
宮本 茂 (元阪急交通社・2002年8月逝去)

◇休 会 河辺 虔三 (元日本航空)
山崎 允 (JICA)

(山崎 允さんは JICA-ODA シニアボランティアとしてザンビア・ルサカ市でご活躍中です。その様子はシニア会ホームページに「マックのZambiaだより」として掲載されています。)

<http://www.class-e-jp.com/senior/reports/macreport.htm>

◇2003年2月末現在の会員数は164名です。(うち休会会員2名、物故会員13名)

同好会活動のご紹介

シニア会には5つの同好会があります。それぞれ活発に活動しており、シニア会アクティビティのベ-ースとなっています。行事日程などをお確かめのうえ積極的にご参加下さい。各同好会の活動の様子や活動スケジュールはホームページでも常時お知らせしています。

● ゴルフ同好会

[担当委員] 高橋謙治 電話：075-934-0246 Eメール：takahasi@eos.ocn.ne.jp

昨年は82名の会員がゴルフ同好会に登録し、4回のコンペが開催されました。延べ参加人数は102名を数え、ファミリーの同伴も述べ6名で、1回平均26名が参加したことになります。

成績は以下のとおりです。

第25回大会 能勢カントリークラブ 参加者31名(ファミリー1名)
(4月9日) 優勝-境 暁士 準優勝-栄藤嘉明 3位-新井永生

研 修 会 西宮北ゴルフコース 参加者25名(ファミリー1名)
(7月5日) 優勝-中村省二 準優勝-河野純哲 3位-早瀬久義

第26回大会 るり溪ゴルフクラブ 参加者23名(ファミリー2名)
(10月22日) 優勝-五十棲安雄 準優勝-石川淑英 3位-境 俊造

研 修 会 スポーツ振興カントリークラブ 参加者23名(ファミリー2名)
(12月12日) 優勝-高橋謙治 準優勝-石川淑英 3位-島田耕作

2003年の競技スケジュール

第27回大会	4月10日(木)	能勢カントリークラブ(花見コンペ)
研 修 会	7月17日(木)	コース未定
研 修 会	9月16日(火)	コース未定
第28回大会	11月13日(木)	コース未定

● ウォーキング同好会

[担当委員] 高山嘉明 電話：0797-31-3177 Eメール：technotour@nyc.odn.ne.jp

2002年度は大幅に参加者が増加したうえ、天候に恵まれて予定したコースをすべて催行しました。

- ・ 2月 3日-高見山雪山登山(7名)
- ・ 4月 7日-芦屋の桜と文学散歩(18名)
- ・ 5月12日-葛城山のつつじ(18名)
- ・ 7月20日-赤目四十八滝(8名)
- ・ 9月 1日-柳生街道と滝坂道(22名)
- ・ 10月 6日-天王山とサントリー(19名)
- ・ 11月10日-湖東三山(13名)

2003年度行事スケジュール

同好会登録者以外の方もご遠慮なくご参加下さい。申込者には実施日の1ヶ月前にご案内いたします。

- ・ 4月 6日(日) 近江神宮と義仲寺 6km 2時間 平地
(見どころ)琵琶湖疎水の桜 (ファミリー向き)
- ・ 5月11日(日) 神野山戸鍋倉溪 10km 3時間 山道
(見どころ)つつじと溪谷奇観 (一般向き)
- ・ 6月 1日(日) みたらい溪谷 6km 2時間 山道
(見どころ)新緑の天川村の溪谷美 (一般向き)
- ・ 7月21日(休) 比叡山 11km 4時間 山道
(見どころ)延暦寺巡回後坂本へ (一般向き)
- ・ 10月12日(日) 曾爾高原のススキ 7km 3時間 山道
(見どころ)草原のススキと湿原 (ファミリー向き)
- ・ 11月16日(日) 西の比叡・書写山の紅葉 5km 2時間 山道
(見どころ)NHK大河ドラマ武蔵の園教寺(ファミリー向き)

● テニス同好会

[担当委員] 久保田勝 電話：0797-31-3177 Eメール：m-kubota@kts-intl.co.jp

発足 1 年が過ぎましたが、シニア会の中ではもっとも活動回数の多い同好会です。芦屋国際ローンテニスクラブをホームコートとして昨年は 12 回プレーしました。特に年末には 8 名のメンバーと家族が集まり、アフターテニスは最大な忘年会を行い、親睦を深めました。

2003 年度は、すでに 4 回の例会を行ないましたが、春の声を聞くと例会のペースも増えることでしょう。

● パソコン研究会

[担当委員] 福井安司 電話：06-6335-2186 Eメール：spdbird@tcct.zaq.ne.jp

昨年 4 月にパソコン同好会が発足して以来今日までに教室へ遊びながら、楽しみながら受講されている同好会メンバーは 28 名（内御夫人 2 名）になりました。

今年の 3 月から新たに 4 名のメンバーが受講されます。

肩を張らず気楽に楽しみながら学ぶのが同好会の良いところだと自負しています。昨今、デジカメの使用率が飛躍的に伸びているのでパソコン教室でも特別にデジカメで楽しむ方法、画像の修正、アルバムの作成方法等、特別クラスを開講してはどうか？現在この様な計画を検討中です。

シニア会ホームページでも、パソコン同好会の活動をご紹介します。

● ロングステイ研究会

[担当委員] 山田晴義 電話：0726-32-8574 Eメール：h-ymd@hcn.zaq.ne.jp

21 世紀にはいり高齢社会の到来などの社会的変化が、新たな価値観やライフスタイルの多様化を話題としています。私どもの関心である「心の豊かさ」が「自由時間のすごし方」として意識され、その活用方法として海外旅行を挙げる人は多くなっています。旅行スタイルも、海外の一地域に比較的長期に滞在し、現地の生活を通して異文化に触れ、人々との交流やさまざまな活動を行い、ひいては現地社会への何らかの貢献をするような滞在型の旅に興味を示す人が増えて来ました。

海外ロングステイは旅行会社にとって利益が少ないことから企画が殆どなく、業界での先輩としてもシルバー層の快適な長期滞在先の知識が少ないが実態であります。また、興味を持つ人も個別のすばらしい情報を持ちながらもトータルとして生かせない状況にあると思います。

そこで、シニア会のメンバーの情報収集力と知識で世界各地のロングステイ先の情報を集めメンバー全員が共通して利用できるネットワーク作りや、メンバーの旅行事業に生かして体験ツアーの企画推進をするなどのシステムを構築したいと考えます。又、収集した情報はシニア会のホームページに掲載して会員の共有情報 BANK として寄与してゆきたいと思えます。更に研修ツアーなどを通してロングステイを体験しながら現地の人々と交流すると共に会員同士の懇親を深め、シニア会の立場で国際的視野に立った活動を探求推進してゆくのが活動の目的です。

◇当面の活動計画

- ① 会員による海外ロングステイ先の情報収集と交換
- ② 各ロングステイクラブとの交流・親睦
- ③ 各国政府観光局・航空会社などからの情報収集
- ④ ホームページ作成と情報ネットワークの構築
- ⑤ 会員の体験研修旅行の企画

◇2003 年度の活動予定

- ・研究会の開催・・・月 1 回
- ・海外研修旅行の開催・・・年 1 回
- ・シニア会ホームページでの情報提供・・・随時



ワイズメンズクラブ国際協会とスペシャルオリンピックス運動に関して

山 本 豊

(元 阪急交通社)

昨年、恒松会長さんよりお誘いを受け入会した新参加者です。一度も行事に参加していなくて心苦しく思っています。

本年度の総会後の懇親会にて、私がボランティアをしています地雷撤去キャンペーンに募金を皆様からいただき感謝で一杯です。ありがとうございました。

早速ですが、私が約20年前に入会しましたワイズメンズクラブの活動から紹介させていただきます。

ワイズメンズクラブ国際協会は1922年に、YMCA (Young Men's Christian Association キリスト教青年会) が行う地域の青少年の健全な育成のプログラムを支援するために、米国オハイオ州で誕生。以来世界各国にあるYMCAと共に、数々の奉仕活動を展開しています。1932年に日本区が設立され70年の歴史を持っています。ワイズメンズクラブは、ロータリークラブやライオンズクラブ等と同様の国際奉仕クラブです。

しかし、これらと異なるところは「イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が宗教信条の相違を超えて、共に働く世界的友好団体であり、YMCAに対する忠誠心を共にしつつ、活発な奉仕活動を通じてリーダーシップを開発し、助長し、提供して、全人類の為のよりよい世界を築くべく尽力するものです。」という目的のもとに、家族ぐるみで楽しく、共同して活動している事です(クリスチャンの集まりではない)。具体的には、ご協力をいただいた地雷廃絶撤去キャンペーン(暴力にNo!)を)、阪神淡路大震災復興支援、台湾台中大震災復興支援として植樹(21世紀の杜、運動)障害者支援のチャリティラン、アメラジアン(アメリカ人とアジアの女性との間に生まれた人達)への支援、知的障害者の自立支援団体(スペシャルオリンピックスへの支援)等のいろいろなボランティアが、活動とその支援をしています。大阪地区(中西部)では11クラブがあり、月1~2回例会をもち、家族と共に交流を深め奉仕活動を通して地域社会に貢献し、その資金作りにも智恵を絞っています。

そして、ワイズメンズクラブの活動の中からスペシャルオリンピックス(略称SO)を10年前に知りました。SOとの出会いはワイズメンの一人がコーチとして参加したアメリカでの国際大会でダウン症の少女が銀メダルを獲得したという話に感動を持って聞きました。日本では熊本以外はこの

団体がなく大阪にこの運動を広めようと考え設立準備を始め、阪神大震災後にSOを日本・大阪が出来、本年度より9年目の活動を迎える事になります。

SO (Special Olympics)

とは、知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供しているスポーツ組織です。

1963年、故ケネディ大統領の妹であるユニス・シュライバーが自宅の庭を開放して始めたサマーキャンプが始まりです。1968年ケネディ財団の支援を受けて組織化され、全米から全世界へと急速に広がり、国際オリンピック委員会(IOC)から、オリンピックの名称使用を正式に認められている活動です。

日本では1980年に導入され、1994年に「スペシャルオリンピックス日本(SON)」がSO国際本部の認証を受け、2001年5月に特定非営利活動(NPO)法人の認証を受けて活動をしています。20を超える都道府県にて組織化され、大阪は熊本、東京につき3番目に設立されました。私は設立準備から関り現在SO日本・大阪の副会長をさせていただいています。日本の理事長は細川佳代子さん(元総理婦人)です。いつも彼女はこの運動は政治では変えられない「世直し運動です。」と訴えておられます。

私はワイズメンズクラブ国際協会(The International Association of Y's Men's Clubs)、西日本区中西部、大阪西クラブの会員でSO日本、および大阪の会員です。今この2つの団体でボランティアとして活動をし、その活動の一つとして2月8日、9日に滋賀県新旭町での「地雷をなくそう!全国子どもサミット」へ世界の漫画家が描いた地雷廃絶風刺漫画絵の展示をさせていただきました。ご承知の通り、日本にあった対人地雷100万個が全て破棄され、小泉総理もその式典とサミットに出席をされた事がメディアにて報道されました。皆様から募金いただきました11,160円はカンボジア地雷撤去に使われるように献金させていただきました。

日本には対人地雷は無くなりましたが、世界には1億個以上が埋られています。毎日70人にのぼる人が被害にあっているようです。



諦めずコツコツと出来ることから、していくことが大切と思っています。新渡戸稲造さんが「三日坊主になっても、善事は小事であっても行う事、行おうとする気持ちが大切で、善事は死なぬ」といっておられます。また、草津温泉の中学3年生は「恐ろしいこと」という詩で恐ろしいことは諦めてしまう事といっています。諦める事はその時点で全て失う事です。ボランティアは自分で出来る事を見つけ、無理せず（身分をわきまえて）、

コツコツと諦めず「箸、盤水を回す」箸を回し続ける事によって盤の中の水も回り目的が達成できると思います。

海旅業界関西シニア会、会員の皆様の中で私の参加しているこれらのボランティア活動に賛同し、一緒に参加をしてやろうとお考えのある方は山本 豊 へ ご連絡下さい。

お待ちいたしております。
連絡先：kuropapa@osk4.3web.ne.jp



私のリタイアライフ

高橋 謙 治
(元 JTB)

国際、経済情勢と社会一般での現在 先行き不透明の中、老後については世間で様ざまに論じられており当会でも会長を中心に提案なり訴えがされておりますが、皆様にはいかがお考えで過ごされているのでしょうか。

私の退職後の日常と物の考え方について披露してみたいと思います。

1958年 高卒で入社 勤続41年9ヶ月で満期3ヶ月を残し59歳で完全退職致しました。本来は期限一杯職務まっとうし出来る事なら何らかの形で第2の働き口で社会に貢献したいと思っておりましたが止むを得ない事情があり退職しました。

しばらく失業保険を受けながら家庭内ではゴロ寝に近い状態で毎日 粗大ゴミ扱いされながら過ごしておりました。

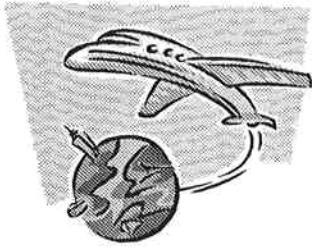
この時点で私の周囲数人（異業種含め）のリタイアの方がどちらかといえば家に閉じこもりで急激に老けられる状態を知り、世間と断絶してはいけなと真剣に悩み思考錯誤しました。現役時代は販売、営業の経験が少なく後方業務経験が永く、不器用で何の才能もない私では一旦ブランクを経てからの第2の職場は無理と判断しそこで多くない蓄えが目減りする一方で、完全な年金生活者ですが

- 1) 10年20年後を考え制限のある生活に今から縛られたくない。
- 2) 現在の恵まれた健康での行動は今しか出来ない。
- 3) 経済的に体力的に又は両方が実行出来なくなった場合（経済面で困窮が先でしょうが）年金が支給される限り最低生活（家にジットしている？）は出来る、

と考えて家庭内では朝のゴミ出し（週2回）、室内、ベランダの花に水やり（週1～2回）、家内自身の会合出席への最寄駅への送迎（月4～5回）買い物の付き合い（月3～4回）、家内と年1回の国内又は海外旅行を目標に、そして私自身は OB会各種行事参加（年7～8回）、ゴルフホームコースの競技会出席（月2～3回）プライベートコンペ出席（月1～2回）、健康維持と飛距離を伸ばす為スポーツジム通い（月10回前後）そして当会の運営委員会を含めての行事等積極的に外気吸入と対話を求めて行動し今までのところお蔭様で老けずにきております。

人それぞれに多様な生き方、考え方があると思いますが、これもひとつの生き方ではないかと勝手な表現、拙文ではありますが記させていただきました。こんな私ですが当会を通じて末永くお付き合い願えれば幸いです。





添乗雑記 ～初めての中国旅行～

前 田 稔

(元 阪神航空)

昨年、日中国交正常化30周年を記念する様々な行事が、両国の関係者で賑々しく取り行われたようですが一昨年、米国に於ける同時多発テロ以降に深刻な影響を受けた旅行業界も頑迷な景気低迷とも重なってまだまだ回復機運に乗りきれていない現状ですが、そんな中に有って中国市場だけは活況を謳歌していて、観光客が大勢押し掛けている様です。

私が初めて中国へ行ったのは国交正常化後、間もない頃でした。米国の旅行会社が企画した北京で釣魚台国賓館に宿泊することを目玉にした11日間のツアーを日本で販売代理店より15席を買い取り添乗員として参加したのが最初でした。

我々一行は伊丹空港より香港へ飛び、同地で米国からやってきた11名のメイングループに合流し我々が到着した夜にホテルの一室で初めて顔合わせをし、米国人の添乗員による中国旅行に関するブリーフィングに参加することになりました。司会進行役は彼が行い通訳的な立場で私が日本人客にその内容を伝えたわけですが何せ初めての経験ですし、中国へ行くのも全く初めてのことでしたので、冷汗一杯で四苦八苦した思いばかりが思い出されます。米国人の添乗員は中国へはそれ迄、何度か経験していた様で自信たっぷり、まるで大学教授が自分の得意分野の講義を行っている雰囲気でした。当時、中国は世界各国からの観光客に門戸を開放して間もない頃だったの何かと窮屈な規制があってお客様に旅行心得を納得して貰える説明を行うのが添乗員の大きな役割でもあったように思いますが、彼の客にこびることなくはっきりと物を云う態度に、どちらかと云うと自分の自信のなさを隠そうとして、遠慮がちにしか物が云えない我身の情けなさ、未熟さを思い知らされすっきり魅せられた思い出が蘇ってきます。彼の話の進行の中で今でも脳裏から離れられない言葉が浮かんできます。「今回、米国から来られた皆様はこの旅行を通じて新しい開かれた中国の実情に触れることの出来る興奮を押さえることの出来ない気持ちで一杯のことと思いますが、思いも掛けず今日から日本からのお客様と一緒に旅行することで、もう1ヶ国の未知の知識を吸収できる幸運な機会に恵まれたことを感謝する度量を持って貰いたい。」と云って聞かせた彼の堂々とした姿に感銘を深くしたことがつい昨日ごとの様に思い出されます。

香港から列車で深圳を経由し広州に入り、桂林、上海そして北京へと和気あいあいの旅を続けて行き



若き日、ローマにて（後列左端が筆者）

ました。各々の場所では別々のバスが手配され、自国語の案内ガイドを得て各地の名所の案内を受けました。

上海から最後の訪問地北京については手配の手違いで一台のバスしか用意されておらず、しかも英語のみを話すガイドの案内で、やむを得ず北京市内の観光に向かいました。幸いその日のスケジュールは空港からホテルへ向かう時間を利用して車窓からの観光のみで助かりました。英語でガイドが話す内容を同乗している日本人客に私が通訳するわけですが、中国語の固有名詞を英語で話され、それを瞬時に日本語に訳することのむつかしさを痛感させられました。

例えば、紫禁城（故宮）をFORBIDDEN CITYと呼び頤和園をSUMMER PALACEと云うなど……

そんな予期せぬ手違いで振りかかって来た苦境に於ても、くだんの米国人添乗員の言葉にまたもや感銘を受けました。「本来、別々の2台のバスが用意されるべきはずが、手配のミスで一台のバスになってしまい、ガイドもとまどっているけれども彼は自分の役目を一生懸命つとめようと努力しています。最初に彼が話す英語は当然、皆様には理解されますが、そのあと日本人添乗員がその内容を日本語で伝えなければならない。その間、皆様には静かに我慢して私語は絶対に慎んで頂きたい。全く同じことを彼は日本人のお客様に伝えてくれることと思います。」

恐らくもう2度と他国の添乗員と一緒にツアーを経験することはないと思いますが私が初めての中国旅行で得た貴重な体験はその後の自分に計り知れない影響を与えてくれた事実はまぎれもありません。

オールドジャズファンの思い出

石原友雄
(元 日通旅行)

古いSP盤から聞こえてきたWCハンディの名曲、セントルイスブルース。ピアノソロだった。その時から私はジャズの世界に引き込まれていった。昭和23年新制高校の3年生だった。上京し、アルバイトをしながら当時流行り始めたジャズ喫茶に通っていた。強烈な思い出は、今はないが有楽町の日劇で聴いたアメリカのノーマングランツ率いる JATP (Jazz at the Philharmonic) の演奏である。デビュー直後のオスカーピーターソンの驚異的なテクニックと圧倒的なスイング感、これで完全にジャズにはまってしまった。ここから私のジャズ遍歴が始まった。ビバツプーウェストコースト—モダン—クールといろいろとジャズの変遷があった。

古稀を過ぎて気がついたら、水割りを片手に聴きたくなるのは初期の頃のオスカーピーターソントリオ。レイブラウンのベース、エドシングベンのドラム、曲は C・ジャムブルース、曲の初めの部分で3度ある絶妙のブレイク。ジャズの真髄はこれかな?と思うときがある。

現役時代、添乗で海外各地で当時まだ日本に来ていなかったジャズプレイヤーの演奏を聴く機会に恵まれた。一番の思い出はシカゴでホテルのロビーの大きなポスターに「オスカーピーターソントリオ・at London House」と書いてある。興奮のあまり添乗員として大事な仕事であるルーミングにミスを出す始末!!! ホテルから数ブロック先の会場へ夕食後早速出かける。満席で全く席がないとつれない受付の返事。ここであきらめる手はないので、「日本から来た O.ピーターソンのファンだ」とねばると、

当時はまだ日本人観光客が珍しかった故か、受付の人がマネージャーらしき人と相談してくれて OK!!!

おかげで日本で聞いたピーターソンを再び楽しむことができた。

そのほか、ローマでルイアームストロング、ミラノでMJQ などを楽しんだものだ。

定年退職後、かねてから親交のあった神戸のジャズ評論家、末広光夫氏に誘われて神戸ジャズストリート (以下 KJS) の実行委員となる。仕事は KSJ に毎回参加する外国人プレイヤーの通訳兼世話役である。アメリカ、オランダ、オーストラリアなどから20~30名がやってくる。毎年10月初旬に3日間にわたって神戸北野地区のライブハウス、レストランなど20件ほど借り切って北野地区はジャズ一色となる。100名くらいの日本人ジャズプレイヤーも加わってのインターナショナル・ジャズフェスティバルが展開される。1万人近くの花が各会場に溢れる大変な人気である。肩のこるモダンジャズは一切なし。スウィング、ディキシーランド等、何しろ楽しくスウィングする演奏ばかり。「スウィングしなけりゃジャズじゃない」をモットーに皆で楽しんでいる。

死ぬまでジャズを楽しもうと頑張っています。



編集後記

日本経済、旅行業界ともに出口の見えないトンネルに入って久しいですが、イラク、北朝鮮問題の行方次第ではトンネルに閉じ込められたまま両方の出口が塞がれてしまいかねない状況です。暗い世相の一デフレスパイラルの中で、消費の牽引役はシニア層ともいわれます。我がシニア会は14年の歴史を経て活動は益々アクティブになってきました。シニア会パワーが旅行業界の元気を取り戻すきっかけとなるような意気込みで今年も前進したいものです。

会報第14号をお届けします。おそらく数年先にはペーパーによる会報は姿を消し、シニア会 Web がその役目をもって代わっていることになるかもしれません。現キャビネットが運営を委ねられて以来の会報はすでにバックナンバーとしてシニア会ホームページに公開されています。さらに同好会のアクティビティ報告を中心に随時リニューアルしていますのでシニア会 Web を時々訪問してください。会員各位のコメントもお待ちしております。

(事務局 仲)